CHUKYO UNIVERSITY LIBRARY

中京大学図書館発行　クリブニュース

CULIB NEWS

2017. 4. 1

No.84

「図書館のイメージ」

学術情報システム部長　小島 英治

2017年度がスタートしました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。さて、皆さんは大学図書館にどんなイメージを持っていますか。それは高校生の頃に思っていたとおりのイメージでしょうか。在学生の皆さんはいかがですか。入学した頃はちがうイメージを持っていたのではありませんか。

世の中には公共図書館や大学図書館、国会図書館などいろいろな種類の図書館があります。しかし、それとは別に一つひとつの図書館にも個性があります。レンガ造りの古い建物があれば鉄とガラスで作られた現代的な建物もあります。本棚のたたずまいも大切です。法律書の並ぶ重厚な雰囲気か、それとも最新情報を紹介する電子的な空間か。建物や蔵書と図書館の個性は切り離せません。けれど最終的にそれを決めるのは利用する皆さんが図書館に抱いているイメージではないかと考えます。

たとえば、中京大学の図書館には2015年は１日当たり1,922人の入館者があって98,961冊の本を貸出しました。また、利用者の10%は一般市民や高校生です。本学図書館は「地域に開かれた図書館」という公共図書館と共通する個性を持っているのです。高校生の頃から利用している人も案外多いかもしれません。

公共図書館で最もインパクトがあったのは日野市立図書館でしょう。ライトノベルが原作で映画やアニメになっている有川浩の「図書館戦争」でお馴染みです。物語と違い、「メディア良化委員会」と闘う「図書隊」はありませんが、図書館は実在しています。日野図書館では1963年に日本図書館協会から発表された「中小レポート」を実践して「市民の図書館」のイメージを確立しました。それが日本中の図書館の個性に影響を与えたのです。

高校の図書室を振り返ってみましょう。司書教諭の指導のもとで図書委員の生徒たちによって運営されていると思いますが、法令が改正されて、これからは専門員として「学校司書」も設置していこう、ということになりました。どうやら、主体的・対話的で深い学びであるアクティブ・ラーニングを効果的に進める基盤として図書室がイメージされているようです。

もちろん、中京大学図書館もアクティブ・ラーニングの真っ直中です。ラーニング・スクエアが設置されるなど、どんどん変化しています。自学自習に欠かせない電子資料も積極的に収集しています。中京大学では2015年に9,493件の論文が電子ジャーナルからダウンロードされました。まだまだ利用が少ないのでインターネット環境を充実させて、もっと使いやすくしていきます。このようにして図書館は新しい個性を手に入れていくのだと思います。

皆さんはどんな図書館にしたいですか。図書館のイベントに参加してスタッフに意見を聞かせてください。中京大学には４つの図書館があります。利用者ひとり一人のイメージで図書館の個性がどんな風に変わっていくのか楽しみにしています。

▲学生が書店で図書館の蔵書を選ぶ「選書ツアー」も好評です

CULIB HISTORY

「クリブヒストリー」
― 図書館の過去・現在・未来 ―

第４章　図書館電算化時代（1989 ～ 1994 年）

本学図書館の電算化の本格スタートは、元号が昭和から平成に変わった平成元（1989）年である。世界の図書館ではすでに昭和55（1980）年代前半から電算化に移行する趨勢にあった。この流れに対して、本学の図書館はどう対応して、電算化を実現していったのか。実施にいたる苦労や奮闘ぶりを振り返ってみよう。

第１節　図書館の電算化スタート

平成元年（1989年）当時、本学の図書館は名古屋学舎（当時）の図書館本館と豊田学舎（当時）の豊田図書館の２館体制だった。蔵書冊数は、製本された雑誌を含め、すでに総計50万冊を超えようとしていた。

本の貸し出しを希望する学生や教員は、カードボックスの前に立ち、その中にあるカード目録に目を通して、書名や著者名、シリーズ名を手掛かりに、本の配架場所を探し出さなければならない。その本が閉架書庫にある場合は、カード目録に書かれている請求記号や本のタイトル、著者名を閲覧請求カードに書き写し、閲覧カウンターにいる図書館職員に提出する。職員はその都度、閉架書庫へ走って行って本を取り出し、利用者に手渡す――という手順だ。

現代のように、コンピュータに『地球温暖化』『安全保障』といった「キーワード」となる単語さえ打ち込めば、関連書籍がズラリと出てくる便利な時代ではない。キーワードの単語さえ分かっていれば、正確な書名や著者名が不明でもお目当ての本を探し出せる、というわけにはいかないのである。

▲平成元（1989）年に開催された図書館コンピュータ始動式

CULIB HISTORY

図書館を利用する人にとっては、不便だったろう。しかし、本を管理する図書館職員は、それ以上に大変だった。カードボックスは、和書と洋書に分け、それぞれ請求番号順、書名順、著者名順の3種類を設置した。請求番号順のボックスは、カードの請求番号と著者記号順、和書の書名順のボックスには書名やシリーズ名、著者名順のボックスには、著者名や編著者名をヘボン式ローマ字順に並べた。洋書はアルファベット順に並べた。そのため同じカードを数枚作成して、それぞれのカードボックスにその順番に従って並べなければならなかった。

目録カード

①請求番号、②が書名、③が著者名など、④が出版に関する事項、⑤が形態に関する事項、⑥がシリーズ名、⑦が原書名などの注記事項、⑧が検索語句、⑨が登録番号、⑩が所在場所

この場合では、和書は、請求記号①で1枚、書名②⑤⑥で3枚、著者⑧の a1と a2で2枚の計6枚
洋書は、請求記号①で1枚、書名②で1枚、著者③で1枚の計3枚

当時、図書館には年間1万冊以上の新しい蔵書が加えられていた。このため、職員は数万枚の目録カードを作成し、カードボックスに入れていく作業に追われた。

さらに、本学図書館には致命的な欠陥があった。本館では、豊田図書館にどんな蔵書があるかを探す出すことが来たが、豊田図書館で本館にある蔵書を探すことは不可能だったのである。なにしろ、蔵書冊数50万冊超である。豊田図書館では、本館所蔵の目録カードをカードボックスに並べ、貸出希望者に対応するには、スペース的にも人的にも無理があった。

「図書館を電算化する以外にない」。蔵書の書名や著者名、つまりカード目録に書き込まれていた情報をすべてデータベース化し、併せて図書館利用者の情報もデータベース化する。この２つがそろって初めて図書館の電子化が完成し、利便性が高まることになる。

関東や関西地区ではすでに多くの大学で、電算化がスタートしていた。東海地区の大学でも数校が電算化に着手していた。本学図書館は、明らかに“後発”だった。50万冊超という、あまりにも多い蔵書冊数がネックだった。

一口にデータベース化といっても、様々な手法がある。どんな形式を採用するか、いつカード目録を廃止するか、利用者のデータベースはどう構築するかなど解決すべき問題は山積していた。

「何から手を付けたらよいのか分からない。しかし、この事業をやり遂げなければ、本学図書館を変革させることはできない」。職員全員が一致して、困難に立ち向かっていった。

CULIB HISTORY

第２節　データベースの構築

資料のデータベース化には、MARC（機械可読目録）と呼ばれているものを利用する必要があった。一口に MARC と言っても、その精度（データの内容）もいろいろだった。当然、和書と洋書ではその MARC も違っていた。

MARC（マーク）
MAchine-Readable Cataloging の略。 機械可読目録のこと。書誌情報や関連情報を機械が読める形式で表現して通信するための規格。定義されている書誌データフォーマットは、1960年代にアメリカ議会図書館の Henriette Avram が開発した。今日のほとんどの図書目録の基礎となっている。

実を言うと、本学図書館では、英語、フランス語、ドイツ語などの洋書資料に関しては、図書館の電算化スタートの5年ほど前（1984年頃）から、UTLAS（アトラス）と呼ばれるカナダのトロント大学が構築していたデータベースを利用して、データベースを作成保存する試みを始めていた。ただ、本学図書館に保存用のコンピュータがあったわけではない。電話回線を利用して、中京大学が所蔵する資料として、トロント大学にあるホストコンピュータのデータベースに、情報を追加保存する契約を結んでいたに過ぎない。従って、本学図書館の利用者がそのデータベースを直接利用できる状況ではなく、利用者は和書と同様、カードボックスから洋書所蔵資料を探す以外になかった。

UTLAS（アトラス）
University of Toronto Library Automated System の略。カナダのトロント大学図書館で構築された図書資料データベースのこと。

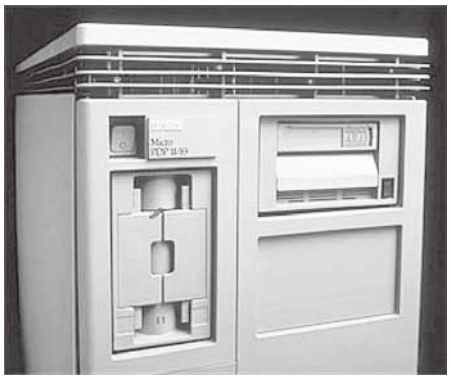
和書のデータに関しては、国立国会図書館が数年前からデータベース化を進め、そのデータを JAPAN-MARC として多くの図書館に提供することが始まっていた。本学図書館でも、電算化をスタートさせるに当たって、その JAPAN-MARC を利用することを決定した。電算化には欠くことの出来ない貴重なデータベースだった。

こうして、和書については JAPAN-MARC を、洋書については UTLAS を利用して、本学図書館に設置されたホストコンピュータ（PDP-11/84）にデータベースを構築していった。当時、本館には専任職員が17名、豊田図書館には9名がいた。それを補助する非常勤職員が本館に7名。豊田に4名。総勢37名が作業に従事した。

JAPAN-MARC（ジャパンマーク）
国立国会図書館が全国書誌データ頒布用として開発した MARC で昭和56（1981）年に頒布サービスが始まった。

PDP-11/84（ピーディーピー・イレブン84）

本学図書館の電算化スタート時のホストコンピュータ。アメリカのデジタル・イクイップメント・コーポレーションのコンピュータ（digital 社はこれをコンピュータとは呼ばなかった。その理由は、当時、コンピュータは高価で、そのイメージを払拭するためであった。）。PDP は当時のミニコンピュータの典型でアドレス空間は64K に制限されていた。



▲ PDP-11/84

今までカード目録で所蔵管理されていた資料をデータベース化する遡及入力と、新規に購入した資料のデータベース構築を和書と洋書担当に分かれコンピュータに向き合った。なにしろ、遡及入力だけで50万冊超もある。

和書は、CD-ROM で購入した JAPAN-MARC をホストコンピュータに入れて、和書担当者がそれを検索し、ヒットしたものからデータをダウンロードしていった。和書が約30万冊あったが、当然そのすべてがヒットするわけではない。ヒットしない資料についてはオリジナルでデータを作成しなければならなかった。書名、著書名、出版社、出版年、ページ数、本の大きさ、内容注記などを、決められた入力規則に従って、データ入力端末機で入力した。

洋書も同様だ。UTLAS 保存データについては、そのデータを本学図書館が購入したホストコンピュータにコンバートすればそれでデータができると考えていたが、和書と洋書を同一レベルでデータベース構築するには、若干ではあるが手を入れる必要があった。とはいえ、洋書だけでも約5万冊の遡及入力をしなければならず、多くの時間と人数を要した。もちろん、UTLAS データにヒットしなければ、オリジナルでデータを作成しなければならなかった。

オリジナルデータの作成には、和書も洋書も慣れが必要であった。たが、その MARC に合わせたデータ作成がとても厄介なものであった。和書は NCR（日本目録規則）、洋書は AACR2（英米目録規則　第2版）に合わせたデータ作成をしなければならず、その規則に従ってデータを作成しなければ、コンピュータによる目録表記や検索に支障が出てしまうのである。

ちなみに、ちょっと専門的になるが、NCR と AACR2の現物を付記しよう。以下が NCR の標準書誌事項と AACR2の第2レベル（標準）書誌事項のルールを示したものになる。どちらもスペースや区切り記号（[　]、=、:、;、／、－、など）が非常に重要になり、このルールに従ってデータ記述をしなければ（一つでも違っていれば）機械は可読せず、データベースの構築もできず、当然だが検索もできないこととなってしまう。「慣れればこの程度のルールはすぐに頭に入る」と思いがちだが、慣れるまでに相当の時間がかかった。（今のデータもすべてこのルールに従っている）

CULIB HISTORY

本タイトル␣[資料種別]␣：␣タイトル関連情報␣／␣責任表示.␣—␣版表示␣／␣特定の版にのみ関係する責任表示.␣—␣資料（または刊行方式）の特性に関する事項.␣—␣出版地または頒布地等␣：␣出版者または頒布者等,␣出版年または頒布年等.␣—␣特定資料種別と資料の数量␣；␣その他の形態的細目␣；␣大きさ␣+␣付属資料.␣—␣(本シリーズ名␣／␣シリーズに関係する責任表示,␣シリーズのISSN␣；␣シリーズ番号.␣下位シリーズの書誌的事項).␣—␣注記.␣—␣標準番号

▲ NCR の標準書誌事項

本タイトル [一般資料表示] = 並列タイトル：タイトル関連情報 / 最初の責任表示；2番目以降の各責任表示.— 版表示 / 版に関連する最初の責任表示.— 資料（または出版物の種類）特性細目.— 最初の出版地など：最初の出版者など, 出版年など.— 資料の数量：その他の形態的細目；大きさ.— (シリーズの本タイトル／シリーズに関連する責任表示, シリーズのISSN ; シリーズ番号, サブシリーズのタイトル, サブシリーズのISSN ; サブシリーズ番号).— 注記.— 標準番号.

▲ AACR2 の第 2 レベル（標準）書誌事項

NCR（日本目録規則）と AACR2（英米目録規則　第2版）
NCR は日本の図書館で、AACR2はアメリカの図書館で図書や雑誌等の資料を蔵書目録に記入するときの手順と規則を定めたもの。特に AACR2は世界中で参考とされている。

データベース構築に当たっては、別にもう一つの大きな問題が持ち上がっていた。図書館に所蔵されている図書には必ず登録番号（ID ナンバー）が貼ってある。しかし、それまで本館と豊田図書館を、それぞれ独立した図書館とみなして運営してきたため、２つの図書館で図書の登録番号が重複してしまっているという事実が判明してしまった。

同じ登録番号の本の存在は、電算化上あってはならないのである。登録番号はデータを個別化する唯一のものなのである。図書がどちらの図書館のものなのか、判断ができなくなってしまうのだ。

図書館の資料をデータベース化するということは、本館と豊田図書館を全体で「1つの図書館」とみなすということである。当然のことではあるが、蔵書数の多い本館の登録番号はそのままとし、蔵書数の少なかった豊田図書館の図書には、すべて新たな登録番号を付与することになった。豊田図書館の職員には少し手間になったが、データベース構築の効率化と利用者への混乱を避けることができた。

一方、利用者のデータベースは、どのように構築していったのだろうか。現代のように、入学と同時に全学生に ID 番号の付いた学生証が付与されるわけでない。

図書館で本を借りていく学生に、名前と学部、学年などをカードに記入してもらって、その都度データをコンピュータに入力して、データを蓄積する以外になかった。すべてがゼロからの積み上げだったのである。

第３節　現図書館の基礎の確立

電算化がスタートした平成元年（1989年）、本学は6学部11学科、大学院が4研究科6専攻を擁する総合大学に発展していた。本学創設から32年が過ぎ、昭和44（1969）年の本館建設からも約20年の歳月が経っていた。

本館建設時には約75,000冊だったが、図書館電算化スタート時の平成元（1989）年には、本館の蔵書数だけでも約40万冊あり、昭和46（1971）年に体育学部が豊田学舎に移転と同時に設置された

CULIB HISTORY

豊田図書館の蔵書数も加えると、図書館全体では約53万冊となっていた。

毎年約1万冊の図書資料と5,000冊の製本雑誌が増えていき、これまでに所蔵していた資料の遡及入力とを合わせたデータベース構築には、想像を絶するほどの多くの時間と人数を必要とした。

▲図書館コンピュータ始動式のときの図書館事務室

平成7（1995）年、名古屋キャンパスセンタービルに本学3番目の図書館となるライブラリー･サービス・センター（LSC）がオープンした。その時の電算化率は30%を超えた。総蔵書数は、約60万冊に増えており、電算化をスタートして6年間で約20万冊近く、1年間に約3万冊のペースで新規購入資料のデータ化と遡及入力をしたことになる。

西暦が1999年から2000年に変わるとき、コンピュータに大きな障害が発生する可能性があるかもしれないという噂に振り回された。いわゆる「コンピュータの2000年問題」である。コンピュータの日付が2000年に対応していない、平成12（2000）年1月1日午前0時に支障が出るかもしれない、などと言った問題が世界中で巻き起こった。大いに心配したが、実際には杞憂に終わった。

いずれにせよ、本学図書館の電算化は、図書館そのものの姿を大きく変貌させ、現在の図書館の礎を築いたと言える。当時の電算化では処理の出来なかった、キリル文字（ロシア語）の処理、ハングルや中国語の処理も、現在では可能となっている。これらの言語は当時取り残され、電算化の進む中、依然としてカード目録を作成していた。そのためカードボックスの撤去には、電算化から20年近くの歳月を要した。本館と豊田図書館からカードボックスが撤去されたのは、平成17（2005）年頃のことである。

その間の平成3（1991）年には、「開かれた図書館」として学外者にも図書館を解放したことから、図書館の利用者数は増加の一途をたどっていた。平成10(1998) 年には、法学部のある校地Ⅱに「法学文献センター」（LLC）が設立され、現在の4館体制となり、蔵書数も100万冊を超えた。今では4館のどこからでもコンピュータで蔵書検索ができ、貸し出しサービスを受けることができるようになった。

これまで本学の図書館職員の多大な労力により構築されたデータベースが、現在の図書館サービスの礎となったのは、まぎれもない事実である。（次回に続く）

（名古屋図書館参事　加藤 恭輔）

『身近な雑草の愉快な生きかた』

稲垣 栄洋、三上 修

筑摩書房

環境問題が大きな社会問題である一方で、自然と接することも減り「カブトムシの電池交換を試みる」などと評される子供時代を生きた気がする。その影響か、植物に詳しい人には憧れがある。皆さんはどうだろう？

本書は、身近に生えている雑草の生存戦略や名前の由来などを美しいイラストとともに紹介している。たとえばマジックテープのようなとげをもつオナモミの実にはじつは大きい種子と小さい種子の二つが入っていて、先に発芽する大きい種子が運悪く農薬などで駆除されても、小さい種子がまだ残るのだそうだ。このほか、ヒメムカシヨモギの葉の位置に潜む規則性やススキの葉でなぜ皮膚が切れやすいのか、などなど興味深い話が満載である。堅苦しさのない読みやすい文章で、おすすめである。

工学部 講師　鬼頭 信貴

『ポートランド －世界で一番 住みたい街をつくる－』

山崎 満広

学芸出版社

「全米一住みやすい都市」として、ポートランド（オレゴン州）は近年日本でも注目を集めている。個性豊かな商店や充実したローカルフード、優れた都市内の公共交通、そして緑の多い街並みや豊かな自然などが高く評価され、移住先や観光地として高い人気を誇る。本書は単なるガイドブックではなく、ポートランドの都市計画やまちづくりについて書かれた優れた解説書である。特筆すべき点は、著者の山崎氏がポートランド市開発局に勤務する職員であり、都市（再）開発に関する詳しい内容が記されていることと、ポートランドの開発手法の輸出先として日本への言及もなされていることである。ポートランドに行ってみたい人、あるいは、自分が暮らす街をより住みやすくしてみたい人にもぜひ一読をお勧めしたい。

国際教養学部 准教授　埴淵 知哉

書籍紹介 先生編

『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』

堀田 隆一

研究社

「なぜ name は「ナメ」ではなく「ネイム」と発音されるのか？」「なぜ If I were a bird となるのか？」本書はこういった素朴な疑問を英語の歴史から解決することを目的とする。本書の特徴として、記述的説明や一問一答式に終始せず、体系的に英語史を学んでもらおうという工夫が散りばめられている。

上に挙げたような「なぜ？」という素朴な疑問は高校までの英語学習においては些末なものとして扱われていただろう。しかし、実はこういった疑問が英語史も含めた言語の本質を探究する言語学という学問の分野の扉になっているということを学生に感じてもらいたい。そして、誰もが見過ごしてしまいそうな些細で素朴な疑問にこそ、物事の本質的理解や問題の解決法が隠れていることに気づいてもらいたい。

国際英語学部 講師　松元 洋介

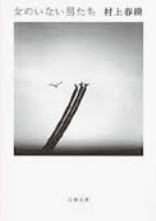
『リーダーの人間力 Integrity』

ヘンリー・クラウド

日本能率協会マネジメントセンター

Integrity（インテグリティ）という言葉を耳にしたことがあるだろうか？ Integrity は、「正直で強い道徳性を持っていること。真摯さ、高潔さ」を意味するが、米国の心理学者で精神科医でもある筆者は、これを「現実が突きつける要求に応える能力」であると定義している。邦訳のタイトルは『リーダーの人間力』だが、原書の題は、“Integrity, the courage to meet the demands of reality” である。社会で成功するには、信頼性が不可欠であり、真のリーダーに必要とされる資質は、「困難な状況から逃げず、課題にポジティブに取組むインテグリティ（人間力）である」と説く。本書は、経営学・心理学・人間学の交錯する領域にも言及し、身近な事例も示して判り易く書かれていることから、推薦すべき一書として挙げたい。

総合政策学部 教授　宮川 正裕



『女のいない男たち』

村上春樹

文藝春秋

各短編において、女性に捨てられたか裏切られた男性が主人公となっている。個人的に好きだった話は、「独立器官」と「シェラザード」。前者は、少し教訓じみたお話。人を深く愛することは理性では止められない。ましてやその相手を考えられない悲劇で失ってしまったら人は壊れてしまう。ありがちな話だが、独立器官というタイトルがまた読んでいて明らかになるのが面白い。後者は女性のピロートークがメインとなっている。彼女の話が読んでいるだけでも情景描写が浮かんできて、この本の短編集の中で一番読んでいてワクワクした。僕もヤツメウナギになった気分になりました（笑）。全体を通して、あまり明るい感じの小説ではないが、手に取ると一気に読めるほど面白い。小説が苦手という方でも短編集なので読みやすいだろう。

国際英語学部 4年　神谷 浩佑

『I AM ZLATAN ズラタン・イブラヒモビッチ自伝』

ズラタン・イブラヒモビッチ
ダビド・ラーゲルクランツ

東邦出版

ズラタン・イブラヒモビッチというサッカー選手をご存じだろうか。2016年からプレミアリーグの名門クラブ、マンチェスターユナイテッドに移籍し、欧州主要リーグの全制覇に向けて奮闘している今、最も魅力のある選手だ。その彼の「一風変わった」とでも形容できる自伝である。

かつて在籍していたプロクラブ、バルセロナで、監督との確執が原因で試合に出られなくなったこと、希望するクラブへの移籍を巡る舞台裏での駆け引きの様子、チームの分裂にもつながった選手間の人間関係などが、赤裸々に語られている。

激しい語り口調で書かれている部分が多く、そこからイブラヒモビッチの素の部分が見てとれる。大いに共感できるとこもあれば、突っ込みどころも満載である。サッカーが好きな方に読んでもらいたい一冊だ。

工学部 3年　寺田 健人

書籍紹介 学生編

『家族シアター』

辻村 深月

講談社

家族は自分にとって一番近い存在で大事な人たち。しかし近いからこそ衝突したりすれ違ったりしてしまう。この小説はそんな「家族」をテーマにした短編集です。

同じ中学校に通う年子の姉妹。姉の由紀枝は真面目な子と言われているが、それは地味な子という意味の裏返し。妹の亜季はそんな姉を毛嫌いし姉のようには絶対なりたくないと思っていた。姉とは決別しようと思っていても気にせずにはいられなくて…。最初の一編はそんな正反対の姉妹を描いています。

他にも受験を控えた優等生の娘と心配性な母親、教師に憧れる小学生の息子と大学教授の父親など全部で7組の家族が登場します。それぞれ姉と妹、娘と母親、祖父と孫のように違う関係性の2人を取り上げています。性格が正反対、考え方が全く違う。ぶつかり合いながらも、相手を受け入れ理解しようとする登場人物たちに愛しさを感じます。読み終わった後は自分の家族のことをあらためて考えたくなる一冊です。

文学部 3年　刀根 千晴

『震災後の不思議な話 三陸の〈怪談〉』

宇田川 敬介

飛鳥新社

タイトルの通り、この本は他でもなく怪談話である。しかし、ただ怖いだけの怪談話ではない。日本人の誰もが忘れることのない、2011年3月11日未曽有の災害が創りだした話だ。あの日、震災により実に多くの死者が出た。この本は、そんな震災被災者が起こした不思議な出来事を集めたものである。

著者である宇田川は、震災のあった東北地方で以前働いていた事をきっかけに、取材を試み震災後被災者から不思議な体験を聞いてまわった。震災直後の町で起こった不思議な体験はもとより、震災前の不思議な予知体験や震災の恐ろしさが伝わるリアルな話までつづられている。

風化しつつある東日本大震災の記憶を、心に強く刻む亡き人々からのメッセージの詰まった一冊である。

国際教養学部 3年　長瀬 佑佳

EVENT REPORT

韓国語　レポートの書き方　司書体験　データベース講習

院生やスタッフが学修支援
ラーニング・スクエア　イベント

名古屋図書館と豊田図書館では、学生たちの能動的な学修を支援する施設「ラーニング・スクエア」が人気を集めている。秋学期には大学院生が韓国語講座やレポートの書き方講座を開き、図書館スタッフも司書体験講座やデータベース講習会を開催した。ラーニング・スクエアを活性化させる取り組みを、幾つか紹介しよう。

K-POP の歌詞の意味が分かるように

【韓国語入門講座】

豊田図書館のラーニング・アドバイザー、体育学研究科修士課程１年の李知勲（イ・ジフン）さんが、３回シリーズで韓国語の基本的な仕組みを教え、「読み」「書き」の演習をした。李さんは「ハングルは子音と母音を組み合わせて、一つの文字になっている。子音と母音のそれぞれの発音が分かれば、読めるようになる」と説明。受講生たちは、李さんの口元を見ながら、「雨」「家具」「帽子」「野球」「料理」といった単語を発音したり、自分の名前をハングル文字で書いたりして、韓国語に親しんだ。

「K-POP（韓国のポピュラー音楽）が好きなので、歌詞の意味が分かるようになれば」「会話も覚えて、韓国へ旅行にも行きたい」と受講生たち。スポーツ経営のマーケッティングを研究している李さんは、「これまで日本人の学生とじっくり交わる機会が少なかったが、この講座を通して交流を深めたい」と期待していた。

どんなことでも質問して…

【レポートの書き方講座】

名古屋図書館では、ラーニング・アドバイザーの心理学研究科修士課程１年、古賀佳樹さんが、「心理系論文の書き方」をテーマに、計３回開いた。論文の要素である「要旨」「問題・目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」などについて具体的に解説。受講生たちは「基本的なことだと先生には聞きづらい面もある

が、アドバイザーの院生は、年齢も近いので、フランクに質問しやすい」「受講生が５人ほどで、個別の質問にも対応してもらえて、とても分かりやすかった」と、感想を話した。
研究者を目指している古賀さんは「将来、学生に教える練習になる。また、受講生の質問に答えられるように勉強し直すので、自分にとってもプラスになる」と語っていた。

豊田図書館でも、体育学研究科博士課程２年、和田卓也さんが計２回、レポートの書き方講座を開いた。

司書を目指す学生のために

【司書体験講座】

主に司書課程を履修している学生に対して、司書の実際の仕事を体験してもらうことで、卒業後の進路の参考にしてもらおうという狙い。返却された本を棚に戻して書架を整理する仕事やページが破れた本の修理方法、図書館間相互貸借（ILL）の仕組みや文献複写の手順などを、図書館のスタッフがていねいに説明した。

電子ジャーナルも使いこなしてね！

【データベース講習会】

ライニング・スクエアには、ホワイトボードやプロジェクターが備えられている。無線LAN（WiFi）の環境も整っているので、カウンターでノートパソコンを借りて、レポート課題やプレゼン用のスライド作成のための意見交換の場としても最適だ。名古屋図書館と豊田図書館では、電子ジャーナルやデータベース、文献管理など、学生に使いこなしてほしいソフトや学術プラットホームの活用に向け、ミニ講習会も数多く開いた。

紹介したのは、約50種類の辞典や叢書、雑誌の検索ができる国内最大級の辞書･辞典データベース「Japan Knowledge Lib」、世界でも影響力の高い学術雑誌の情報を効率的に検索できるデータベース「Web of Science」、文献管理・論文作成支援ソフト「END NOTE basic」など。受講生の一人は、「とても便利なツールであることが分かった。論文やレポート執筆に役立ちそうで、大満足です」と話していた。

2017年度　図書館カレンダー

図書館の一年間の開館予定が一覧でご覧になれます。
各館ごとの臨時休館、開館時間の変更等は、図書館ホームページの【ニュース】でご案内いたします。

◎通常の開館時間

	名古屋図書館（NL）	ライブラリーサービスセンター（LSC）	法学文献センター（LLC）	豊田図書館（TL）
平　日	9：00～22：00 （中京大学の教職員証・学生証をお持ちでない方は下記時間内に入館して下さい 平日9:00～19:00、土曜日9:00～15:00）	9：00～20：00	9：00～19：00	9：00～20：30
土曜日		9：00～12：30	9：00～12：30	9：00～17：30

◎日付の色について

無印は通常開館日（開講期）
○は休講期（全館　平日9：00～17：00、土曜日9：00～12：30）
■は休館日
●は LSC（定期試験月の休日開館日　10：00～17：00（中京学生・教員のみ対象））
■は学内行事時間帯開館日（見学対応あり）（9：00～16：00）

○はラーニング・スクエア　イベント開催期間
※7/16（日）　名古屋図書館
9/10（日）　豊田図書館
オープンキャンパス開催に伴い館内見学のみ対応する
（9：00～16：00）

名古屋図書館（NL）

	日	月	火	水	木	金	土
4月							①
	2	③	④	⑤	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
5月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	27
	28	㉙	㉚	㉛			
6月					①	②	3
	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10
	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	17
	18	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	24
	25	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	
7月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
8月			①	②	③	④	5
	6	⑦	⑧	⑨	10	11	12
	13	14	15	16	17	⑱	19
	20	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	26
	27	㉘	㉙	㉚	㉛		
9月						①	②
	3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
	17	18	⑲	⑳	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

ライブラリーサービスセンター（LSC）

	日	月	火	水	木	金	土
4月							①
	2	③	④	⑤	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
5月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
6月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
7月							1
	②	3	4	5	6	7	8
	⑨	10	11	12	13	14	15
	⑯	⑰	18	19	20	21	22
	㉓	24	25	26	27	28	29
	㉚	31					
8月			①	②	③	④	5
	6	⑦	⑧	⑨	10	11	12
	13	14	15	16	17	⑱	19
	20	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	26
	27	㉘	㉙	㉚	㉛		
9月						①	②
	3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
	17	18	⑲	⑳	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

法学文献センター（LLC）

	日	月	火	水	木	金	土
4月							①
	2	③	④	⑤	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
5月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
6月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
7月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
8月			①	②	③	④	5
	6	⑦	⑧	⑨	10	11	12
	13	14	15	16	17	⑱	19
	20	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	26
	27	㉘	㉙	㉚	㉛		
9月						①	②
	3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
	17	18	⑲	⑳	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

豊田図書館（TL）

	日	月	火	水	木	金	土
4月							①
	2	③	④	⑤	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
5月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	27
	28	㉙	㉚	㉛			
6月					①	②	3
	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10
	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	17
	18	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	24
	25	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	
7月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
8月			①	②	③	④	5
	6	⑦	⑧	⑨	10	11	12
	13	14	15	16	17	⑱	19
	20	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	26
	27	㉘	㉙	㉚	㉛		
9月						①	②
	3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
	17	18	⑲	⑳	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

発　行　　中京大学図書館
〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2　TEL(052)835-7157　http://www.chukyo-u.ac.jp/research_2/library/　印刷　株式会社 一誠社